



こんにちは!



市議員 井坂博文 です

発行/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

来年度京都市予算編成にあたって要望書を提出

会 市 団
議 員 員

29日、日本共産党京都市会議員団が京都市の来年度予算編成にあたって、18名全員そろって京都市長あてに要望書を提出した。総選挙が突然おこなわれたこともあって例年より少し遅れたが、総合企画局長に手渡し、岡田副市長と懇談した。

予算要望については、市民や団体のみなさんと意見交換して提出するので他の会派と比べても結構ボリュームがある。京都市政の運営にとどまらず、安倍首相による憲法改定の提案や、教育・子育て予算、その財源とする消費税増税など、国に対する京都市からの要望も含めている。



要求書を提出する党市会議員団

また、2月予算市会に提案される予定の民泊条例についても副市長と突っ込んだ意見交換をおこない、副市長も「市

2日北区「人権のつどい」が開かれた。テーマはLGBTについて考えるもの。市会議員団としても当事者の方と懇談し、個人的にも関心があり、玉本市議、私の妻らと参加した。

講演は、仏教大学院生でトランスジェンダーの久本絢愛（あやな）さん、とても素敵な女性だった。自分の身体と心のギャップに悩みながら、あるきっかけで高校担任の体育会系教師、両親にもカミングアウトしたところ、担任は「よくわからんけどお前を応援する」と言い、その後彼女が戸籍を女性に変

更した時に今の名前をつけてくれた。両親は「なんで早く言わなかった。お前のやりたいうようにしたらいい」と後押ししてくれたという。とても苦労しただろうに、それを感じさせない明るくさ

「人権のつどい」で「LGBT」について考えた

わやかな話しかた。いつペんにファンになり、楽屋に押しかけて記念写真にも快く応じていただいた。

映画「彼らが本気で編むときは、」も最高に良かった。優しいトランスジェンダーの

京都市行政の「人権啓発」には押しつけ感が強くて批判的な私だが、今回の企画はよかった。こういう企画をもっともっと取り組んでほしい。



やすい私は、心が温かくなり、周りの人や家族に優しくなりたい、と素直に思えるようになった。いい映画だ。

情熱と正義感の「新聞記者」に感銘

本の題名は「新聞記者」。著者は菅官房長官の定例記者会見で次々と質問を繰り出し、脚光浴び声援を受け一方で、バッシングや脅迫を受ける東京新聞記者の望月衣塑子さん。

なぜそこまでできるのか？ぜひ知りたかったものが、少しわかったような気がする。

「私は特別なことはしていない。権力者が隠したいと思うことを明るみに出す。そのために情熱をもって取材相手にあたる・・・これからも、おかしいと感じたことに対して質問を繰り返す、相手にしつこいといわれ、嫌悪感を覚えられても食いが下がって、ジグソーパズルのようにひとつずつ疑問を埋めていきたい」と彼女は書いている。

私は市議員になって26年になるが、この情熱と正義感を持って仕事に臨んでいるか、初心に立ち返ってがんばる勇気が湧いてきた。

26日、春と秋に開催している恒例の町内会交流を兼ねたバーベキュー会を開いた。会場は、今回も町内にある協立診療所の駐車場を借りた。何か足りなくても家に取りに帰られるし、スーパードも近所であり、本場に助かる。みんな感謝している。

秋晴れの下、町内会バーベキュー

3年目となる慣れたもので、私の事務所から机とパイプ椅子を借りて、てきぱきとバーベキューセットを設営し、いつもの近所の精肉店で肉厚のハラミを購入し、野菜や一品おかずやデザートを持ち寄り、ピエール、日本酒、ワインを飲みながら盛り上がり、楽しいひと時を過ごした。

セットの設営から肉を焼くのもお父さんパパがすごい。お母さんには子どもを遊ばせながらゆっくりと食べていた。

今回は、特別メニューで、たまたまわが家に届いていた産直のグレを、魚をさばくのが得意のお父さんがテキパキと三枚におろしてくれた。炭火焼きして食べたらとても美味。次回は来春の5月連休になるが、肉に加えて海鮮バーベキューにしようかと今から相談している。